

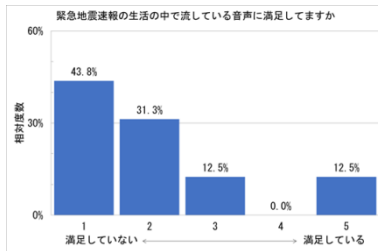
提案企業（団体）名 歯っぴー株式会社

テーマ 音声デジタル加工技術で防災行政無線の価値を高める

実施目的 特に高齢者をターゲットに、防災無線の音声をデジタル加工することで、災害時に適切な音声情報を届け、一分一秒でも早い行動を促せるかを検証する。

<現状の課題>

災害発生時の住民への主な情報伝達手段として、市内255局の防災行政無線がある。一方、「荒天時には聞こえない」との市民の声が多数。



70代男性を中心とした標本調査  
満足していない割合が高い

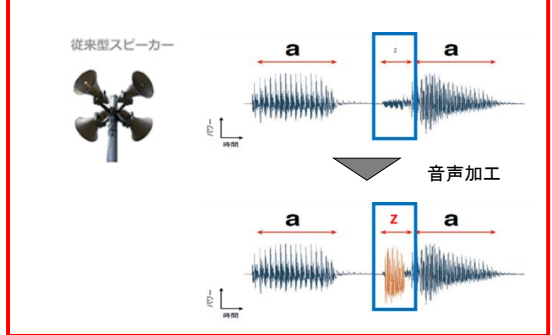
<今回の実証で実現したいこと>

防災無線から出力する音声データを適正化し、従来型スピーカーで伝達能力を高めて、防災無線自体の価値を高める。

従来方法：高性能スピーカーへ置換



今回提案：従来型スピーカーの価値を高める



ハード面の対策として、既存スピーカー自体を高性能スピーカーへ置換することも可能ではあるが、予算への負担が大きいため、ソフト面での改善を図る取組を実施。

連携先 坂井市

提案企業（団体）名 歯っぴー株式会社

テーマ 音声デジタル加工技術で防災行政無線の価値を高める

Q. CO-FUKUIに応募したきっかけを教えてください。

他の取り組みで、比較的高性能の防災行政無線で効果が確認でき、導入が見込める段階で本事業を見つけた。多くの自治体で使われる一般的な防災行政無線での検証・横展開に向けて実証実験を実施させて頂きたいと考え、応募しました。

Q. CO-FUKUIで実証実験を行ってよかった点を教えてください。

実証実験先を探すのに苦労するだろうとは予測していたが、実際に実証実験選定が円滑に進まなかった。県庁さんや事務局さんが粘り強く検証先を探して頂いたことで、検証先が見つかった。  
また、検証先との打ち合わせも自由活発な意見交換ができ、合成音声からの選定という取り組みができ、本取り組みをきっかけに仕事の幅が広がった。

Q. 本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

天候のよい平常時と、豪雨を想定した悪天候と2通りで音声デジタル加工技術の優位性を検証した。  
それぞれ4パターンで音声デジタル加工技術有無で聞き取り実験を行った結果、天候のよい平常時の想定検証では、75%(12/16人)～88%(14/16人)から音声デジタル加工技術が望ましい結果となった。また豪雨を想定した悪天候の想定検証では、4パターン全てのケースで100%(16/16人)から音声デジタル加工技術が望ましい結果となった。

Q. 今後、実証実験を行った事業をどのように展開していくのか教えてください。

本事業以降も追加検証を行い、その結果を元の実証先の市民と自治体と弊社との合意が得られれば、本格的な社会実装に向けた協議を進めていく予定です。

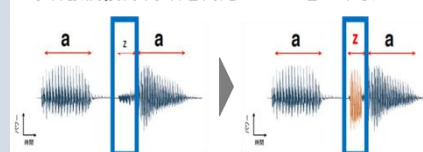
関係者のコメント



坂井市総務部  
安全対策課  
主事 大石 康介

実証実験を通して市民と直接関わることで、防災行政無線の課題を改めて実感できた。  
また、様々な加工音声を客観的に聞く機会となり、担当としても良い経験となった。  
実証実験で得られたデータや参加者の声を参考にしながら、今後の防災行政無線運用について検討していきたい。

・子音強調技術（子音を同定しパワーを上げる）



聞き取りやすくなる音声加工技術の提供中

